

患者氏名 _____ 様
患者ID _____

化学療法(抗がん剤治療)に関する説明書

I. 病気の現状と病名、

(病名) _____ に対し、化学療法（抗がん剤治療）が必要です。

II. 治療の内容(使用する薬剤、スケジュール)

療法： XELOX 療法

III. 治療の必要性と予想される効果

化学療法は、がんの治癒ないしは生存期間の延長、がんによる自覚症状の改善、がんの再発予防などの効果を得るために治療法です。がんに対する他の治療、例えば手術療法や放射線治療などが適さない場合や、他の治療と化学療法との併用によって、生存期間の延長や自覚症状の改善などの効果が期待される場合には、化学療法が必要となります。

抗がん剤を適切に使用することにより、がん細胞を死滅させ、がん組織を小さくしたり、再発や増大を抑えたりする効果が期待できます。ただし、これらの効果については個人差があり、相当の効果が得られる場合もあれば、期待した効果が得られない場合もあります。また、効果や副作用を考慮した上で、薬剤の減量、中止、延期や、薬剤の種類を変更することがあります。このような場合はその都度説明させていただきます。

IV. 治療による不利益(治療の副作用)について

抗がん剤は、がん細胞とともに正常細胞も傷つけますので、程度の差はあっても副作用は必ず起こります。また、化学療法に伴う主な副作用は、使用する薬剤の種類によっても異なります。

そこで、副作用に対してはあらかじめ予防を行い、出現した場合には可能な限りの対処を行います。それでも副作用が十分にコントロール出来ずに生命に関わる可能性も、一般的には数パーセント（非常に副作用の強い治療法であれば 10 パーセント程度）あります。ただし、症状には個人差があり、場合によっては記載のない副作用が発現する可能性もあります。

V. 代替治療について

化学療法以外にがんを治療する方法としては、手術療法、放射線療法、補完代替療法（民間療法）などがあります。ただし、これらの治療が適応となる場合と、適応できない場合があります。また、手術・放射線療法はいずれも局所治療であるため、がんがその範囲を超えて広がっている場合には、手術や放射線療法だけでは効果が不十分となります。

VI. 支持療法について

支持療法とは、がんそのものに伴う症状や治療による副作用に対しての予防策、症状を軽減させるための治療のことです。例えば、感染症に対する積極的な抗生素の投与や、抗がん剤の副作用である貧血や血小板減少に対する適切な輸血療法、吐き気・嘔吐（おうと）に対する制吐剤（せいとざい：吐き気止め）の使用などがあります。当院では、支持療法に対する専門のスタッフが患者さん個々に応じた支持療法をサポートしています。

VII. 抗がん剤に関する薬剤指導について

抗がん剤使用患者さんを対象に薬剤師（がん専門薬剤師等）による薬剤指導を、医師の指示のもと、行っています。疑問点や不明な点は、遠慮なくお尋ねください。

VIII. 血液検査について

化学療法の影響により血液を造る能力が低下し、特に白血球が減少することで感染防御力が低下することがあります。また、B型肝炎ウィルス(HBV)キャリアの方の場合、HBVの再活性化により劇症肝炎が発生することがあります。このため、化学療法導入前に HBs 抗原、HBc 抗体、HBs 抗体のスクリーニング検査を行い、化学療法導入後も必要に応じて定期的に採血検査を行います。

IX. 患者さんの権利

1. 同意の撤回について

同意書を提出後でも、申し出により同意を撤回すれば、治療を中止・変更することができます。

2. プライバシーの保護

患者さんの個人情報は、保護されます。なお、当院で行われた抗がん剤治療の結果を、今後の医療に役立てるために論文・学会等で公表する場合がありますが、個人の氏名や、個人の識別ができる情報は一切公表されることはありません。

3. 質問や疑問を自由に述べることについて

この治療について、また治療上のさまざまな質問や不安については、治療のどの段階であっても、主治医または薬剤師、看護師に自由に質問することができます。

4. セカンドオピニオンについて

この病気・治療に関して他施設にセカンドオピニオンを希望される場合は、主治医や看護師に遠慮なくご相談ください。

X. 治療できない場合についてと、患者さんに守っていただきたいこと

化学療法を安全に実施するにあたっては、治療開始基準を満たしていることが必要です。治療に必要な検査にはご協力ください。当日の体調や診察・検査成績の結果によつては、治療できない場合があります。なお、説明された副作用以外でも、何か異常がありましたら遠慮なく主治医、薬剤師、看護師にお申し出ください。すぐに対処させて戴きます。

患者ID _____
 患者氏名 _____ 様

治療の内容（予定される XELOX 療法ケジュール）

			Day	1	…	8	…	15	…
L-OHP	エルプラット	130mg/m ²	点滴静注	↓					
Cape	ゼローダ	基準量 C 法(表参照)	内服	→	→	→	→	休	休
2週間内服、1週間休薬									
21日(3週)を1コース									

※患者さんの体調等によっては、上記スケジュールを変更して実施する場合があります。

副作用について

この治療で起こりやすい副作用には以下のものがありますが、5%以上の発現頻度のものを基準に記載しています。まれに、ここに記載のない症状が現れる場合があります。症状には個人差もありますので、心配なことはいつでもご質問ください。

■ アレルギー症状（アナフィラキシーショックなど）

点滴中や終わった後すぐに、ほてり感、かゆみ、発疹、息苦しさ、胸が苦しいなどの症状が現れる場合があります。この副作用は重症化したり、生命に関わることもありますので、症状が発現した場合にはすぐにお知らせください。

■ 骨髄抑制

治療の影響で血液を造る能力が低下し、特に白血球が減少し、感染防御力が低下することがあります。このため、白血球を増加させる薬剤を使用することがあります。出血を止める働きをする血小板の減少も時に生じ、この際には血小板の輸血が必要となることがあります。まれに消化管などから出血が起こることがあります。赤血球が減少すると貧血となります。貧血が進行した場合には輸血を考慮します。これらの副作用については自覚症状に乏しいことが多く、必要に応じて採血検査を行います。輸血による副作用についてはその都度ご説明致します。

■ 全身倦怠感

薬剤の投与後、2・3日して現れることがあります。

■ 食欲不振・味覚異常

薬剤の投与後、2・3日して現れることがあります。

■ 悪心・嘔吐

薬剤の投与当日から現れることがあります。制吐剤の内服、点滴等で予防するなど、症状に応じて薬剤を使用し、症状の軽減をはかります。

■ 下痢

薬剤の投与当日から現れることがあります。症状に応じて止痢剤を使用します。

■ 便秘

薬剤の投与当日から現れることがあります。症状に応じて下剤を使用します。

■ 脱毛

治療中、脱毛が生じることがあります。脱毛の程度には個人差がありますが、治療終了後しばらくして多くの場合は 再び生えてきます。

■ 末梢神経障害

薬剤の投与後、しばらくして手足がしびれたり、感覚の異常が起こることがあります。症状が強く出た場合、日常生活に支障をきたすこともあります。また、投与回数が増えるに従い症状が強くなり、長期間症状が残ることがあります。

■ 口内炎

薬剤の投与後、数日して現れることがあります。口腔内の痛みにより食欲減退を伴う場合もあります。うがいやブラッシングなどでなるべく口腔内を清潔にしてください。

■ 手足症候群・色素沈着

薬剤の投与後、手足の皮膚が乾燥し、手のひらや足の裏に刺すような痛み、手足の感覚の麻痺、腫れ、発赤、発疹、皮膚の乾燥やかゆみ、ひびわれなどが起こります。また、皮膚の色が黒くなったりシミができやすくなることがあります。

■ 涙目・流涙

眼科専門医の受診が必要になることがあります。症状がある場合はご相談ください。

■ 爪の変化

使用する薬剤によっては、爪が変色したり、化膿したりすることがあります。爪がはがれやすくなることもありますので、適度な長さに切り、清潔にしてください。

■ 腎機能障害

薬剤の種類によっては腎臓に障害を起こすものがあります。必要に応じて、腎障害予防のために点滴などを使用します。重篤な場合、腎臓が機能しなくなって人工透析が必要になる場合もあります。

■ 肝機能障害

薬剤の種類によっては肝臓に障害を起こすものがあります。とくに、肝炎ウィルスキャリアの患者さんでは、ときにウィルス性肝炎の再燃・劇症化が起こる場合があります。このため、必要に応じて検査をします。

■ 臨床検査値異常・電解質異常

治療の影響で体内のミネラルバランスの変化などが起こることがあります。必要に応じて検査をします。

■ 発熱

薬剤の使用後に発熱を起こす場合があります。必要に応じて薬剤を使用します。

■ 皮疹

薬剤の使用後に皮疹を起こす場合があります。必要に応じて薬剤を使用します。